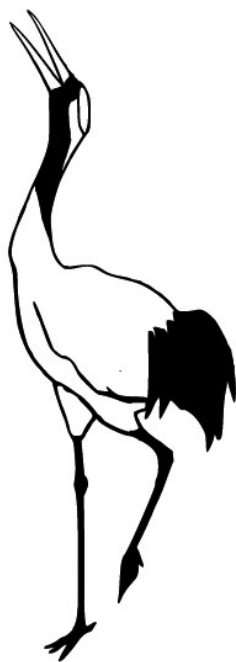


odai

magazine



#18

生活の手引き



おだいにまつわるエトセトラ

小台という場所の断片的なイメージから
小台をイメージするためのコーナーです

足立区って足立区!?って印象なんだけど、実際に小台に行くとき穏やかでいいところだよ。天気がよかつたらなおさらいいし、春だつたらもつといい。近くにあらかわ遊園があるし、川もある。鳥もたくさんいた気がする。いつも都電荒川線で行くんだけど、まず荒川線に乗るところから楽しいもんね。

福田とおる

小台のイメージは川、橋、蚊、猫にやゝ



川沿いを散歩していたらにゃんこさんに遭遇しまして、ご挨拶がてらにやゝにやゝ言っておりましたら、蚊の大群におそろわれ一瞬で10箇所くらい刺されたのが初小台の良き思い出ですにゃ



にゃんここ

小台と同じ島にある宮城公園には

定期的にパン屋さんの車が来て

パンを売ってるんだけど

おれが買いに行こうと近づくと

いつも撤収するんだよね

偶然だといいなあ。

こんがりトースト

そこでコーヒーとトーストを頼みました。早々に食べ終わると、急に眠たくなってきました。コーヒーが眠気を覚ますという、あれは本当かなあ、なんて思いながら、座ってる椅子に沈んでいきました。椅子に座ってる私が、椅子に間違えられてしまわないかなあと、夢の境目で思っていると、ふらっと入ってきた客が、私の上に座ってしまいました。そして、私は今、誰かを待っている。来るか来ないかわからない人。私がこの店を出る頃までに、あの橋を渡りきれたのなら。

池間由布子

この冊子はいろいろな人にいろいろなことを書き寄せて貰った文章などからできています。
どなたでも寄稿できます。
いろいろなことは生活そのものです。
身近なこともそうでないことも頭の隅に居座って、いつか何かしらの手引となるかもしれません。

二十七になる前に

江原 茗一

来春、私は二十七になる。朝まで飲み明かすなんてことも減った。もともと多かったわけではないのだけれど、そうしたいという欲もなくなった。だからたまにそんなことがあると、深夜三時頃には情けなく膝が痛くなってくる。冬は特にしんどい。都内早朝のホームは、夜十時のようにごった返す。冷えと頭部の重さを、電車のドアに全部預け、眠るまいと立つ。明日（今日）すべきことを思い出しながら、窓ガラスに映る自分の疲労しきった顔を見ながら、私のことを考えていた。

ロックスターは二十七で死ぬという。そんな本ばかり読んでいたので、その伝説をほんの少し信じていた子供のころの私は、自分の行いや立場が、何か特定の状態である場合、自分の信念が強かったり弱かったりということ、エトセトラによって、生き死にに関わるかもしれないと、妙に真剣に考えていた。

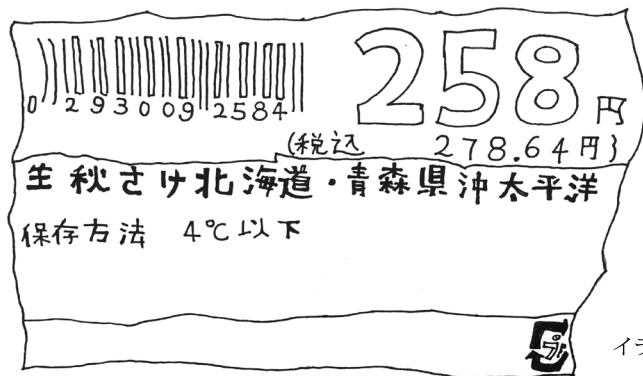
私には「これだ!」と強く思えるような将来の夢が長らくなかった。未来の自分の姿を想像することができず、何を願っても叶わないような気がして、考えることをやめてしまっていた。何かを作ったり、色々なことをするのは好きだ。でもその、色々なことをするのが好きということの発端には、

れない、と。だから、二十七までに何かを成し遂げなくては思っていた。このことは最近あった数本のインタビューを経てふと思い出したので、すっかり忘れてしまっていたのだけれど、頭の片隅にあつて、そのために動く運命だったのかもしれない。もちろんこれまでの道のりでもっと別の理由が私を動かしてきたことは間違いないのだけれど。誤解しないで欲しいのが、別にロックスターのように二十七で死にたいとは思っていたというわけではない。間違ひなく死ぬわけにはいかない。要するに私が言いたいのは、かつて読み、聴いたロックスターたちの偉業が、手本としての二十七をもつて、私に一つの節目を掻き立てた、かもしれない、ということ。ありがたく思う。

日々忙しく、女としての心がけは恐ろしく不足している。ささくれと口内炎が痛々しい。けれど、二十七を前に満ち晴れ晴れと、充実している。その先は希望でいっぱいだ。何かに犠牲はつきものらしい。二十七で人生を終えてしまったロックスターたちも、そう思っていたのだろうか。そんなことをぼんやり考えながら帰宅。二時間後の目覚ましをセツトし、着の身着のままベッドへ。

「叶わない」ということに対する逃げがあつたのかもしれないと今は少しだけ思う。将来に目標を見出せずにいた私は、「自分は早くに死ぬだろう」と本気で思っていた。自ら絶つてしまうというのはなくて、何もないことが運命として死を引き起こすかもしれないという漠然とした予想。ロックスターたちが死ぬ年齢まで、生きられないかもしれ

Always fresh life hack !!!



イラスト・文

DJ 半額

魚のあら。魚をさばいた時にでる、商品価値の低い部分の寄せ集め。雑多な部位が白いトレーの上にたくさん載せられて、ラップの下でギューギューに詰まっている様子を見るとワクワクします。いろんなものがたくさん詰まって、見える福袋みたい。ぶりのあらは、ぶり大根なんかにはいいですね。いろんな部位があるので、食べる時に選ぶ楽しみがあります。一晩置くと煮こりが出てきて、白米の上に置いて、レンジでチンして食べてもいい。七味をかける。ゆずの皮を散らす。

かように調理欲を喚起する魚のあらですが、大概「加熱用」とラベルに印字されています。しかし、同じ売り場に、同じ水揚げ港、同じ魚が刺身で売られているのを見た時に気づきました。「この、あらのパック、部位によっては刺身でもイケるんじゃないか？」と。だって、考えてみてください。同じ魚が、同じ港に水揚げされて、同じ輸送ルートで、同じ店に届いて、さばかれているわけです。お行儀よく並べられているか、雑多に詰め込まれているか、の違いです。そりゃ

あ、内臓に近いところとか生食できない部位もあるでしょう。刺身としての商品価値はなさそうだが食べられそうなのところもある。尾に近い部分とか。選り分けて食べてみたら、イケる。この事実に基づいて以来、あらのパックを見つけたら、刺身コーナーもサーチするようになりました。種類、加工日、水揚げ港で同定できたら、ゴーサイン。特にまぐろなんかは、ねらい目です。刺身だと980円なのに、あらだと200円だったりして、安いし量は多いし、お得です。刺身で食べられない血合は、竜田揚げ、生姜と煮る、などなどいくらでもやりようはあります。

と、このあたりまで、書きましたのがメ-cut1週間前。午前中に「生秋さけ北海道・青森県沖太平洋」と印字された鮭のあらを買い、お昼に生で食べた日の夕方です。全身に蕁麻疹が出ました。とりわけ、お腹の周りは標高の低いグラントキヤニオン、あるいは真つ赤に染まった珊瑚礁か、という具合でした。今後、生で食べるときは「刺身」と印字されているものを買おうにします。

キングオブコント2017の感想文

こんがりトースト

10月に放送された「キングオブコント2017」を見て、無性にこの感想文を書きたくなった。

まずキングオブコントを簡単に説明したい。キングオブコントとは、国内で開催される最も大きな笑いコンテストの1つで、約2000組の芸人が、ネタ（コント）を披露してその得点を競い合う。勝ち上がった10組で行われる決勝戦は、テレビで生中継される。この感想文ではテレビで放送された決勝戦について書く。

僕が今回感じたのは「空気の逆転」だった。そして、それに深く関わっていたのが、優勝コンビの「かまいたち」と、ある意味がかまいたち以上の衝撃を残していった「にゃんこスター」の2組だ。彼らについて触れながら、今回感じたことを書いていこうと思う。

その前に、ネタの感想も1つだけ書いておく。僕が思うネタのベストは、かまいたちの1本目「告白」だ。内容はもちろん、ネタ作りに取り組む「姿勢」に関心した。昨年披露したネタの欠点を克服しようとしているように見えたからだ。それはど

ういう欠点か、昨年のネタをふり返ってみる。

昨年のネタ「ホームルーム」——舞台は学校のホームルーム。その中で、生徒の給食費が盗まれた、という話題が上がる。先生（ツツコミ）は、みんなに顔を伏せろ、犯人は正直に手を上げてほしい、と言うが、マジメな生徒（ボケ）は、このクラスにそんなやついない、と言い切る。実はこの生徒が犯人で、顔を伏せたあと、静かに手を上げる。しかもその生徒は顔を上げたあと、先生！犯人がいたなら今名前を言ってください！と、まくし立てていく。——このコントは面白いのだが、ツツコミに問題がある。生徒がまくし立てたとき、先生は「なんで言えるの？」などのツツコミを入れている。もちろんそのツツコミは、コントの演出としては必要なものだ。しかし、犯人がこの生徒だということを知らず先生だけ、という設定の中ではそれは心の声であるべきで、周囲に聞こえるのはおかしい。コントとして必要であるはずのツツコミが、逆にコントの世界観に矛盾を生んでしまう（矛盾することがなぜよくないのかというと、観客は、矛盾に気づいても気づいていなくても、無意識にそれが気になってしまい集中できなくなる、それはつまり笑いづらくなるから、と僕は考えている）。これが昨年の欠点だ。ではその欠点が、今回どのように改善されたのが、こちらもあるす

じを載せて解説していきたい。

今年のネタ「告白」——公園で告白「される」練習をしている学生（ボケ）、それを発見した同級生（ツツコミ）は植木の陰に隠れてその様子しばらく観察する。しかし告白される練習をする学生が（狂気じみた）ヤバイやつだということがわかってくる。そしてとうとう隠れている人の存在に気づかれる、だがそれも練習していることが見つかったときのための練習だった。——このコントでも、植木の陰に隠れている学生が、要所所でツツコミを入れていて、序盤は昨年の「ホームルーム」と全く同じ問題を抱えていた。しかし中盤から、隠れているのがバレたかもしれない、という方向に話が進んでいくので、隠れているのに大声でツツコミを入れるという行動が、設定を壊す矛盾ではなく、むしろ設定を固める役割へと変換されたのだった。僕はここにかまいたちの「前回を超えるネタを作る」というネタ作りの姿勢を感じた。

何度も言うが僕の中のベストはかまいたちの1本目のネタだ。しかし、審査員によるかまいたちのネタの得点は、1本目より2本目の方が高かった（結果、そのおかげでかまいたちは優勝できた）。なぜそうなったのか、単純に、審査員の基準や好みは僕のそれと違うから、という可能性もあるだろう。いや、確実にある。しかし、それ以外の別

の力も働いていた、と僕は考える。

そこに今回のもう1組の重要なコンビ「にゃんこスター」が関わってくる。にゃんこスターの登場によって、空気の逆転が起こったと考えているからだ。それはどういうことか、それには、コントを披露する場には大きく2つある、ということとを理解しなくてはならない。1つはテレビ、もう1つはライブだ。僕はよく、ライブで披露されるネタ、ライブに向いているネタを「3Dネタ」、テレビで披露され、テレビに向いているネタを「2Dネタ」と呼んでいる。「向いている」というのが重要で、ライブでウケているネタがテレビではあまり面白くない、ということがあったとしても、それは、単に大衆を引き込む引力がなかった、とは言い切れなくて、実はそのネタの性質が、短い間合いで有効に働くライブ向けのネタ、つまり3Dネタだったから、という場合があるのだ。

かまいたちの1本目「告白」は、コントをテレビ向きの2Dとして落とし込むことに成功していた。人・植木・人が横並びになった立ち位置や、横スクロール的な動きのみで構成されていて、まるで「ドリフターズ」のコントみたいだった。それに比べ2本目の「ウエットスーツ」は、3Dの要素が強いネタだ。服をテーマにしている時点で視点が

細かいし、このネタの魅力である叫びツッコミや、アクション、床に叩きつける音などは、生で見ることでは発揮されるものだ。

これを読んで、いやテレビでも十分伝わるけど、と思う人もいるだろう。そういう人も、一度お笑いライブで生のネタを見れば、テレビによってどれだけ情報のそぎ落とされているかわかるはずだ。ライブに行くと、まずとにかく芸人の声の大きさに驚く。僕がライブで初めて「千原ジュニア」を見たときも、驚いたのはそこだった。声の力で押し倒される（いつもより笑う）ような感覚があったのだ。かまいたちの2本目「ウエットスーツ」はまさにそういう場（ライブ）で最高のパフォーマンスを発揮するネタと言えるだろう。しかし問題は、現場の空気が3Dネタを求めていたのか、という点だ。

僕は、にゃんこスターがその空気を作ったのではないかと考えている。にゃんこスターの1本目のネタ「縄跳び」はかまいたちの1本目のネタのあとに行われた。つまり1本目と2本目の間だ。このネタは立ち位置と動きという点では2Dの要素を持つネタだ。しかし、爆音で大塚愛の「さくらんぼ」を流しながら、激しく動きながら、ツッコミはもはやツッコミというか、ひたすら叫ぶ人

と化していて、とにかく情報量が多かった。それは音楽ライブやクラブで踊ってる時などの感覚に近いもので、現場にいる人たちはそれを直接浴びたことになる。

このネタによりそれまでテレビ的な2Dネタを求めていた現場の空気が、一瞬にして、3Dネタを求める空気に逆転したように見えた。さらにその後のネタは全て、キングオブコントのために準備してきた選りすぐりの2Dネタばかりで、3Dネタを求める空気は、3Dネタに飢えた「飢餓状態」にまで進行していったのではないか。そこへ、かまいたちによる「こちそう」が振舞われることで、審査員たちの、観客の胃袋を掴み、結果1本目より2本目の得点が高くなったのではないか。

以上の例えは、読む人によっては大げさに思えるかもしれない。でも、お笑いの現場では常に、多かれ少なかれこれと似た空気の流れが発生している。だから、そこを踏まえてお笑いを見ること（ネタ単位で見るとはなく、流れも同時に見る）、その楽しみ方を知らないのは勿体無い、と他の感想文を見て思った。特に今回のキングオブコントは、それが露骨に現れていた回だったから。

絵日記

鈴木レゼはるひ



温度 午後前 40 35 30 25 20 15 10 5 0 -5 -10 -15	おきたじこく 12月 2日 天気 ☆	ねたじこく
てほかのバレエ教室とち	こないだわたしのお姉ちゃん(パール)のバレエのはびうへんがあまりま	
いました。わたしが見て	した。お姉ちゃんはどう	
一番前に立っておどて	せいとリーズのけこん	
いきました。わたしは	の村娘のやくをやって	
	いきました。ようせいでは	

甥っ子とわたし

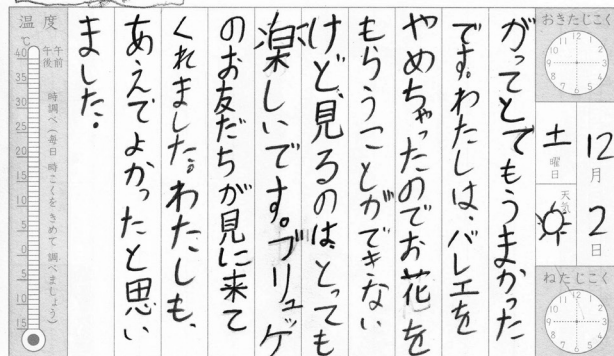
「おじちゃん知らない」

そう言つて、少し湿つたように見える目をこちらに向けて頬を膨らます。またしつこく何かをした結果、彼を怒らせてしまったようだ。

恐ろしさの欠片もないその姿を見ると、なんだかもういちどそれを見てみたくなつて、またちよつかいを出してしまう。それが大人の事情である。

しかし、それまでの様に彼を怒らたり泣かしてしまうことは度々あるものの、二度とそのフリーズと素振りを発することはなかった。つまり、怒らせ損をして過ごしたということだ。

週に一度は感じているように、時の流れというものは恐ろしく早いもので、その時から既に半年以上が経過している。例のフリーズはもう彼にとつては時代遅れになつてしまつているだろう。



つづいて

128 段の階段のうた
13 段目

長谷川至洋

雨にけぶる街。

通り過ぎただけの夏はもう思い出そう
としてもぼんやり揺れるだけだ。

寒々しければ寒々しいほど、景色に不思議な優しさが灯ることがある。

僕はそれをなんとか的確に表現できないものかと、椅子に座ったり立ったり冷蔵庫の中をのぞいたりして、ため息をつくんだ。

マナーモード

川和田 遼

こんにちは。音楽家の川和田です。

唐突ですが、皆さんは美術館に行きますか？

私ですか。暇さえあれば行きます。大学の専攻が美術史なくらい、美術とか好きな方です。

では、皆さんは美術館の展示室でおしゃべりとかって、しますか？あと、小さな子と一緒に رفتりとか。あんまりしてる方って見ないですね。非常識っぽい感じもありますか。

ちなみに今のは日本の美術館の話で、例えばパリにあるルーヴル美術館とかに行くと、事情が違います。

まず、画家の卵たちがそこいら中で作品の模写をしています。でっかいイーゼルとか広げて。それから、小学校低学年くらいの子たち向けに学芸員がツアーやつたりもしています。みんなワーワー楽しそうにしますね。大人のお客さんたちも絵を見ながらあーじゃないこーでもない話し合いながら歩いていて、あんまりヒソヒソ声は聞こえません。そういえば関係ないんですけど、前にMONNAでダンディな黒人のおじさんに急に呼び止められ

て、「そのかぶってる帽子すげえいいね。どこで売ってるの？」って訊かれました。それくらい声を出すことに忌避感がない。あと、作品の写真撮るのも全然〇（海外のスマホは撮るときバシャバシャ鳴らないですね）だし。

でも、そこで急に誰かが演奏し始めたらしらうでしょうか。さすがのルーヴルでもこいつやべえなみたいになって、警備員がワサワサ来るのではないのでしょうか（来ないかもしれないですが）。どうしておしゃべりはよくて、演奏はだめなのでしょう。近所の奥様の悪口よりきれいな音楽の方がよくないですか？音楽の種類によるのでしょうか？ヘビメタはだめでプロコフィエフのヴァイオリン協奏曲なら〇？音楽が美術作品に新しい意味合いを持たせてしまうから？

では、舞台を変えて、それが「コーヒーの店」だったらどうでしょうか。例えば、小台にあるブリュッケというお店だったら。普段は心地良いBGMと共にコーヒーの香りを楽しんでいるのに、ある日急に知らないミュージシャンが演奏をはじめたら。「今日は本を静かに読もうと思ってきただけなのに。まじうぜー。」と思うでしょうか。それとも、「外で音楽聴くなんて考えてもなかったけど、意外によかったかもしれないな。ラッキー。」みたいな感じでしょうか。

そんなことを考えながら、寒くなってきた部屋のまんなかでうたをつくっています。いつかブリュッケで聴いてもらえたらいいな、と思いつつ。

「出来杉より頭をよくしてくれ」

ホノベミナミ

テレビをつけたら、ドラえもんがやっていて、のびたが「出来杉より頭をよくしてくれ」と言っていた。いまのわたしのねがいごとそんな感じ。だから、目頭が熱くなっちゃったな。

わたしは、ねがいごとをするタイミングがあるのと、「いとうせいこうより頭をよくしてくれ」と頭のなかで唱える。ねがいごとなんて、ねがいがかう前提だったことないのかもしれないのと思う。なんとなくキャッチーで、本当のところは切実だけどギャグに聞こえるひとこと。そういうセリフを、神様の前で言いたくなっちゃうみたいだ。そういうところがわたしばかりかみたいなのだ。だからやっぱり賢くなりたい。

この出逢ひこそクリスマスプレゼント

かつて私は、この句のなんのひねりもない、素直すぎる内容を軽んじていたように思う。作者が日本で最も大きい結社「ホトトギス」の主宰であり、無季俳句や難解な俳句をつくる我々に対し抑圧的な存在として反感を覚えていたのも事実である。

しかし、あらためてクリスマスの句となると、西東三鬼の「黒人の掌の桃色にクリスマス」や秋元不死男の「へろへろとワンタンするクリスマス」といった句とともに、この句を思い出してしまふ。

この句を読み解く上でのポイントは「こそ」の二文字であろう。この句の音数律は5・7・5をすこしずらした7・5・5だが、より細かくみれば5・2・5・5であり、上の五音と中の五音をつなぐブリッジの部分にこの二音が置かれ、アクセントとなっている。

この「こそ」はいわゆる係助詞であり、已然形とともに係り結びを構成する。つまり「クリスマスプレゼント」のあとに何らかの動詞や助動詞が省略されているのである。たとえば「この出逢ひこそクリスマスプレゼント（なれ）」という具合に。それでは、たとえば「この出逢ひクリスマスプレゼントなり」としてもほぼ同じ意味になるが、比較してみると非常にリズムが平板で、心地よさが喪われてしまふ。また、この句には「こ」「こ」「ク」という力行音の小気味の良い頭韻があり、アップテンポのクリスマスソングのように軽快である。

そして、この句は省略を利かせた多面的な解釈が可能な句でもある。「出逢ひ」などというところ、クリスマスというシチュエーションもあって恋愛と結び付けたくなるが、必ずしもそうと決まっていたわけではない。もちろん「出逢ひ」に「逢」の字を使っているからには、人と人との出逢ひなのだろう。しかし、誰と誰との出逢ひなのか

は明らかではないし、プレゼントは与えるものなのか、それとも与えられるものなのか、いくつもの解釈が可能であり、感情移入しやすい、

クリスマスという、日本人にとって宗教色は薄い、冬至をすこし過ぎた一陽来復の気分——寒くて暗い冬のまつたでなかで、小さな火種をちからいっぱい吹いて熾すような祝祭の気持ち——をもたらず特別な日。人恋しさ、なつかしさのひとつの出逢ひをとて美しく、暖かく、気高いものに感じさせる、そのようなクリスマスの晴れやかさを屈託なく象徴してくれる句である。

作者は稲畑汀子（1931年1月8日〜）



音も立てずに 続

杉浦 俊介

左足に金属を埋められて機械の体を手に入れた後は生身の体よりも大変だった。家の中ではけんけんをして移動していたら右足が痛くなるし、松葉杖で動き回るせいか傷が塞がるのも遅かった。一度、赤坂に行った日があった。地下鉄の乗り換えやら階段、坂道、不自由なく歩けると何でもないことにいちいち苦労する。そんな生活の中で少し優しくなったり、色々な気持ちがあった気がする。

足の腫れが引いてきて靴も履けるようになり、松葉杖なしで左足を庇って歩く生活が続いていたある雨の日の翌日、悪寒を感じて寝ていた。体温は上がっていき、40度を超える熱で週末2日休んでしまった。月曜になっても一向に熱が下がらなず、左足が少し腫れてきているようだったから、「これはひよつとして」と思って病院に行った。

案の定、というのも変な話だけど先生が足を見るなり不穏な表情で「金属取らないと治らないから入院して手術だね。今日から入院で。」と急な入院宣告を受ける。「やっぱり」なわけだが、このまますぐに入るのは流石に困るから一旦帰宅して本を詰め込んだり、お泊りの準備をしてから挑んだ。

今回も大部屋でなんと窓際のベッドに割り振られた。前回のカーテンと壁だけの環境に比べたらかなり嬉しい環境だ。移動も車椅子。そして点滴生活が始まった。毎日6時、14時、22時の1日3回。ここで言うておくと、今回の入院は感染症によるもので、抗生剤を打ってばい菌をなくさないといけない。この頃には熱は38度くらいに下がっていて、かなり楽になっていたけども看護師さんからは解熱剤で下げた方がいいと座薬を貰った。座薬を投入すると、ものの

数十分で寒気がしてきたて寝てしまった。

昼過ぎに起きると、少しだるさが残ってはいたが36度台まで下がっていた。その後に血液検査やらMRIを経て点滴。点滴の前、看護師さんが確認で患者に名前を言わせることがある。向かいにはテヅカタカシさん。隣はタカハシタカシさん。斜向いはスズキさん。喋ることはないが、見舞い人や看護師さんとの会話からどんな人でどんな症状なのかわかると少し親近感がわくものだ。この部屋のムードメーカーはスズキさん。しょっちゅうナースコールを押して色々所望するが待たされて文句を言う。

手術まで数日。足はますます腫れ上がって薬指は親指くらいになるんじゃないかという勢いで太くなっていた。病院に行かず家で寝てたらと考えるとゾツとする。

そして金属摘出手術。前回と同様にほぼほぼ記憶喪失で目が覚めると病室で体にくっつか管がついている。そこからまる二日くらいはベッドから立たなかったと思う。術後、足の腫れは引いていった。どこまで育つか心配していた薬指はというと、萎んでフカブカのゴム手袋をはめてる様な感じで皮はベコベコしていた。それで持ってきていた中国語の本をずっと読んでいた。看護師さんに「なんで中国語やってるの？」

と訊かれる。生活に於いて人とタメ口で話されることはほぼ皆無なので、古い友人のようで新鮮だ。それから、「中国人の入院患者さんを仲介するから教えてもらったらいいんじゃないか？」と提案され、共有スペースで落ち合った。張さん。長いこと日本で中国語を教えているらしい。階段で転んで両足を骨折してしまい入院している。場を設けて貰ったものの、疑問があるようなレベルではないから、書いてあった漢文をピンインにそって読んだだけだった。日本人にしてはかなり発音がいいと言われた。店であつたしやべっチャイナとかうたつチャイナの賜物だ。30分程すると彼女はレントゲンの時間。「加油」と言つて別れた。

毎日三食の病院飯をおいしく頂く。向かいのテヅカさんは90歳を超えるのにしっかりと喋る絵描きの方。気分が悪いからと先日リハビリを休み、もうすぐ退院という話もあつたのに容態が変わり手術という話になつていた。同じ病室だけで、不思議と喋ったこともないのにみんな無事退院して欲しいと思うようになる。

そんなある日、点滴で名前を言わせる看護師さんの日が久しぶりにあつた。スズキさんの下の名前がススムであることがわかつた。勘のいい読者はススキリしたのではないだろうか。こ

の部屋の構成員のこと。わたしのイニシャルはSSです。向かいはTTで隣もTT。残つた斜向かいがSSということがこの日わかつたのです。「スズキススム」と、彼が名前を發した時に入院二日目から抱いていた自分の期待が壊されることはなく、スクラッチくじで3等の絵柄が揃つたかのごとく嬉しかった。すぐにこの部屋の図を描いて、順に回つてきた看護師さんに伝えた。爆笑していたが、「凄いつちゃ凄いくど怖いよね」と言われた。確かに怖いかもしれないが、この部屋の人の声くらいしか聞くものもないのだから仕方ない。看護師さんのイニシャルがゾロ目じゃないから自分が意識しすぎなのかは分からないけど、とにかく4人全員がゾロ目で同じイニシャル同士が対角線を成していることへの感動は伝わらないようだった。奇しくもスズキさんはその日のうちにリハビリ棟へ移つて行つてしまつた。これでお名前遊びは終わつてしまひ、その後入つてきた男性の名前は覚えていない。

それにしてもいつ退院出来るのがわからないと思つて点滴のタイミングで尋ねてみた。すると、「日に3回も打つてるから結構かかるんじゃないかな。」と言われた。なるほど、そうなのか。と11月に入ることも覚悟していたのだ

が、その2日後に点滴は外れ、担当医が朝様子を見に来た時に、「もう退院できそうだったらしいいいよ。」と言われた。正直、あと一週間はあるだろうと思つていたから突然退院と言われても困るのだ。いや、普通に考えれば良いことかもしれないが、予定が狂つてしまつた。落胆しながら左足の薬指が氣になつて触つてみると、ゴムつぽくなつていた皮が剥けた。それもまるつと一周剥けて、中からものと薬指がでてきた。人体の不思議を感じているとテヅカさんは手術に。テヅカさんが出て少しすると部屋を片しているような感じがして、気づいたら別の人が入つていた。病室の入れ替わりというのは思つたより激しい。

翌日、私は病院に別れを告げて普段の生活に戻つた。十日間の懐かしい不思議な空間。うるん滞在記でどこかに行くこんな気持ちになるんだろうか。前回の二泊三日に比べて長かつたからか、何人かの知人がお見舞に来てくれた。本やお菓子をいただき入院中の糧となりました。ここにお礼申し上げます。

まだ完治しておらず、12月の頭に撮つた最後のレントゲンでは人差し指が曲がつてくつことがわかりましたが、もう少しで普通に歩けるようになりそうです。

旬

クララ

日本には四季があります。

季節ごとに貯め頃を迎える食材があり、それらを「旬のもの」と呼ぶそうです。旬の食べ物は安価で、新鮮で、栄養価も高く、その時期に起こりやすい体調不良をカバーする効能が期待できる成分が多く含まれています。

昨今、食材は通年出回り旬がわかりにくくなってきましたが、季節ごとの食材「旬のもの」を知り、料理に上手に取り入れながら自然の恵みをしっかりと受け、四季の変化を楽しみましょう！



白菜 Chinese cabbage

年中見かけますが、旬は冬です。

3～5月 春白菜

6～10月 夏白菜

11～2月 秋冬白菜 ↑旬

寒さが厳しいと美味しさがアップ！

食物繊維は柔らかく消化にグッド！

淡の野菜。95%が水分！

外葉と芯葉にビタミンCが多く、芯葉にカリウムが多いです。風邪予防に有効なビタミンCが含まれています。

精進料理では「養生三宝」（大根、豆腐、白菜）として貴重な食材とされているそうです。

選び方ポイント

白い筋の部分に艶があり新鮮
歯が青々とし黄ばみが無いもの
↓時々黒い斑点を見かけませんか？
「ゴマ症」といつて栽培時にストレス等を感じると現れますが、病原菌やカビでは無いので、食べても問題はありません。

保存方法

丸ごと↓新聞紙など空気を通せるものに包んで冷暗所に立てて保存を！

丸ごと保存するなら半月、冬場なら3週間～1ヶ月。

※横にすると重みで腐る場合がある

ので注意！

カットしたもの

↓痛みやすいのでラップなどに包んで冷蔵保存。早めに使い切りましょう。

※密封性の高いビニールなどで保存するとかが群れて腐りの原因となってしまうので要注意！

調理ポイント

部位によって固さや甘さが異なるため、調理する時は使い分けすると尚良！

↓青々とした葉先や柔らかい中心部

↓生食 サラダ、漬物など

↓他は煮物など

↓火を通す 鍋、スープなど

調理法はいろいろ見つけてみてください！

My 旬 MUSIC

Jim o'Rourke

- Eureka

stereolab

- Milky Night

Antony and the johnsons

- Hope there's someone

ゆふり あ の 山 2017.11.24

[A] 0 2 1 4 0 4 0 1 0 4 0 4 1 1 [B] 1 0 1

4/4 3 1 2 0 1 0 2 0 2 3 1 Fine

♩1.... あ の 山

3 3 3 2 2 D.C al Fine

はいめにもとて Fine まで

順路 [A] - [A] - [B] - [B] - [A]

あ の 山

ギター教室の初級の課題曲として書いた。
先人の素晴らしい練習曲は山の数ほどあるが、
自分自身が楽しむためにも、オリジナル曲を題
材にすることにした。

楽曲は、ゆったりとした速度で、一音一音を豊
かに、山の如く演奏されることが好ましい。

譜面の一段目は上、二段目は下が主旋律である
ため、意識して弾き分けて道に迷わぬよう注意
して欲しい。

強引ではあるが、主旋律は山の稜線の様である。

斉藤 友秋

ひとくちメモ

斉藤友秋さんのギター教室は高円寺
にあるコクテイル書房や小台にある
ブリュッقهでやっています。

申込みはどこからでも。私も習いた
いのになかなか時間がとれません。
気になる方はまずは除いてみては。

生きるってなんだろう

人間が生きるってなんだろう？

朝起きて、太陽の光を浴びたくて外に出ると、何かわかりそうな気がすると、焦る気持ちがあるの少し

それで午前はまだ、何か分かります。

正午を回るともう分からなくなる。

やらなきゃいけないことがあると、そんな事を考えたいのに考えれなくなる。宿題を先延ばしにしているような、鈍い気持ちをずっと抱えている。

毎日同じように習慣性を持って生活すること？何か少しずつ駒を進めること？

歩いたり、移動したり、仕事と呼ばれる何かをして、飯を食べて、排泄して…老いて…？

ふとよぎるのは、体が生きると精神の方が生きるとは違う気がする。

だからわからなくなるのか、

晩飯を誰かの家で食べたい。

それで、生きるって何なのか聞きたい。

こうしては居られないような気持ちになって立ち上がろうとして、

やっぱりまさかな、と思った瞬間、

奥の席の背広姿のサラリーマンの大きな笑い声が聞こえた。

ビール瓶を傾げると細く残りのビールが流れる。

グラスは全く満たされなくて、少しイラついて、もう一本ください。とカウンターの皿に盛られた煮物越しのおばちゃんに伝える。

とん、

栓を抜いたばかりの冷えたビールがやってくる。

瓶の口にはうっすら白いもやが見える。ぐっすり眠っているところを無理やり起こされたかのように、もやは目をこする。

それをさらに叩き起こすように、僕は一気にグラスに注いだ。

泡がたちまち膨れ上がって、パツと完全に目が覚める。

生きるってなんだろう。人間が生きるって…

その始まりは、目を覚ますところからだと思っている節があるかも知れないな、とおぼろげに思っ、

酔っ払ってきたな。と思う。

大瓶に入っている液体を見て、残りは美味しく飲めないかも知れないな、と思った。

僕はほとんど残したビールをそのままにして、お代をテーブルに置いて店を後にした。

橋の渡りかた

誰かに腹を立てた時は、その人の生活や家族を想像してみましょう。少し優しくなれるかも。反対に余計に腹が立つかもしれないので要注意。

人と話すときには相手の目を見て話しましょう。そうすることで正直者になっ
てしまうかもしれません。
目をみて嘘をついてはいけません。

買ってきたみかんが甘くなかったら数日置いてみましょう。
甘くならなかったら人にあげるのもなかなかで諦めて食べましょう。

喉が乾いたら水を飲みましょう。
喉が潤います。
少し味がほしい時は、お店に行くと色々な味の飲み物があります。

状況に合ったことわざを探してみま
しょう。昔も今も変わらないルールが
見つかるかもしれません。
昔の人はよく言ったものです。

山に登って見晴らしのいい所にでたら、
「やつほー」と大きな声を出してみま
しょう。
少し恥ずかしいかもしれませんが。

音がよく聞こえない時には手のひらを
丸めて耳にあててみましょう。
少しよく聞こえるようになります。
なんだか音の原理がわかりそうです。

ペットボトルのゴミを出し損ねたら
スーパーに行ってみましょう。
殆どのスーパーで回収しています。
お店によっては缶なども◎

無駄なことをしてしまったと思ったら、
どうしたら無駄じゃなくなるか考えて
実践してみましょう。
生活に無駄がなくなりそうですね。

余裕があるときには規則正しい生活を
してみましょう。
無理矢理にでもそうすると、不思議と
生活に張りが出てくるものです。

橋のたもとから

幕末から飲まれていた、となると当時のことはわからないのですが、少なくとも戦後にコーヒーが流行してからの歴史は積み重ねられて、お気づきのようにはコーヒーという単語には十分なまでに含蓄があるのです。そしてその含蓄と対峙しなければならないコーヒー屋も少なからずそうです。

個人的にはこれは音楽で言うフォークというものに似ている気がします。フォークが何を指すか正直わからないけども、2000年にはいつてからフリーフォークという流れがあり、それまで自分の認識していた神田川のようなフォークのイメージとは違うのです。あの頃のフォークのハーモニーは確かに素晴らしかったりしますが要はブレンドみたいな感じで、私の思うフォークはひとりで弾き語る様なスタイル。コーヒーで言えばシングルオリジンのスペシャルティコーヒーのようなイメージです。こういうものだと思ってたのに、こんなものがあるのか！そう言った楽しみ方を持ってコーヒーにも音楽にも接して行けたらと思います。

ここは小台にある自家焙煎のコーヒーの店です。自家製のケーキやトーストなんかも、クリームソーダだっております。音楽イベントや展示などの催しもあります。

豆の袋やちょっとしたものを活版印刷の「まんまる〇」さんに印刷してもらっています。

店内には王子にある古本屋、「コ本や」さんの出張棚もあって古本も買うことができます。「コ本や」さんでは毎月第二木曜日に出張コーヒーをやらせて貰っています。

「こんな顔」 in 小台

玉坂めぐる

ブリュッケ近所の荒川商業高校のフェンスの外にいつもいるおじさんです。グラウンドを照らすライトの根元のところ。小さい声で「イチ」って…。



小台マガジン 18

池間 由布子（歌手）

江原若一（mei ehara ミュージシャン。文藝誌「園」主宰。）

川和田 遼（音楽家）

クララ（ベコ飼いたい何でも屋）

吹越 麻生子

福田とおる（絵描き・イラストレーター）

にゃんどこ（お祭り好きの猫）

DJ 半額（ひみつ）

栗原 論（店主のパイセン）

こんがりトースト（フリーター）

斉藤 友秋（作曲家）

鈴木 レゼ はるひ（小学生）

玉坂 めぐる（「顔に見えるもの」の収集家）

中村 安伸（俳人）

長谷川 至洋（公務員）

ホノベミナミ（大学生）

杉浦 俊介（店主）

 @eflmay  eharamai.com

 @kwwd

 @fugu

 @fukkura029

 @nyantokonyan

 kongaritousuto.tumblr.com

 @saitosaitama

 konnakao.blog96.fc2.com

 @yasnakam

 @hasesh

 @honobeminami

 @hashi_to_coffee



小台マガジン vol.18

2017 年 12 月
編集・印刷 ブリュッケ

BRÜCKE

odaibrücke.org